

「第九」日本で一世紀

都内2カ所 記念イベント

1918年初演の鳴門 ゆかりの会津 絆固く



徳島と福島から「第九」アジア初演100年に向けて意気込みを発信したフラッシュモブ。9月13日午後6時30分すぎ、東京都世田谷区・二子玉川ライズ

フラッシュモブで盛り上げ

全ての人々は兄弟になる」。ベートーベンの最後の交響曲「第九」は人類愛など、希望に満ちたメッセージを世界中に送り続けてきた。この第九を日本、そしてアジアで初めて奏でたのは、第1次世界大戦中のドイツ兵捕虜だった。1918年6月1日、場所は徳島県鳴門市の板東停留場（ふりよ）収容所。2年後の2018年、初演から100年を迎える。

敵国で捕虜たちが第九を演奏できたのは、収容所の松江豊寿（とよひさ）所長（1872～1956年、福島県会津若松市出身。のちに第9代若松市長）の寛大で人道的な運営方針があったためだ。音楽やスポーツ、演劇などの文化活動や生産活動が認められ、収容所外でも牧畜や製パン、建築などの技術を地元住民に伝え、住民は親しみを込め「ドイツさん」と呼んだ。

第九初演など、板東の奇跡」とも言える。この歴史を鳴門市は大切に受け継いできた。収容所跡近くには資料を展示した市ドイツ館がある。毎年6月の第1日曜には第九の定期演奏会を開き、全国から集う600人の合唱団が声を合わせる。

初演から100周年を迎えるに当たり、鳴門市や徳島県、徳島新聞社、さらには松江所長の出身地・会津若松市、福島民報社が連携し、記念コンサートやシンポジウムなどの計画を進めている。13日は、初演の地のPRを目的に、二子玉川ライズ（東京都世田谷区）のイベントスペース・ガレリアで、第九の演奏を突然始める「フラッシュモブ」（徳島新聞社、福島民報社主催）があった。初演の地・鳴門から15人、会津から7人が参加し、指揮者・平井秀明さんのタクトに合わせ、声を響かせた。動画が後日、インターネットで公開される。

徳島からは阿波踊り連、福島からは高校生のフラダンスチームが参加し、花を添えたほか、両県の物産展も開かれた。

13日のほぼ同時刻、表参道ヒルズ（渋谷区）でも第九フラッシュモブ（徳島県主催）が展開された。

「奇跡」が生んだハーモニー

松江所長の人道精神契機

— 福島・会津若松市出身 —



板東俘虜収容所の第1兵舎で写真に納まる徳島オーケストラと合唱団（鳴門市ドイツ館提供）



板東俘虜収容所長を務めた会津若松市出身の松江豊寿

第九が誕生したのは1824年。以来、幾多もの交響曲が世に送り出されてきた。しかし、第九ほど知られた曲があるだろうか。世界史の重要な局面でもたびたび第九は登場した。1918年、第1次世界大戦の終戦を受けて、ドイツで開かれた「平和と自由の祭典」、89年12月25日、ベルリンの壁崩壊を祝う記念コンサート、98年の長野オリンピックでは小澤征爾氏の指揮で5大陸・世界同時中継が実現、「歓喜の歌」が地球を包んだ。

そんな第九を日本にもたらしたのは戦争だった。14年7月に第1次世界大戦が勃発。勢力圏の拡大をもくろむ日本は8月、ドイツに宣戦布告し、ドイツ軍の拠点、中国・青島を包囲した。3カ月後、ドイツ軍は降伏した。約4700人のドイツ兵捕虜は東京、徳島、福岡など12カ所の収容所に入れられた。その後、鳴門市大麻町の板東、習志野、名古屋などの6カ所に統合され、板東では17年4月から2年10カ月にわたり、千人前後の捕虜が過ごした。

収容所は小さな町のようだった。兵舎8棟や将校棟、倉庫棟が並び、捕虜たちが働く場として80軒余りの商店街、レストラン、印刷所、図書館、音楽堂、科学実験室などの施設もあった。

板東には四国霊場の1番札所・霊山（りょうぜん）寺があり、各地からの遍路を温かくもてなしてきた文化が古くからあった。こうした土地柄も、捕虜と住民の交流を生んだ素地として指摘できる。

徳島県鳴門市の「第九」の歩み

大正3(1914)年7月
第1次世界大戦勃発。8月、日本がドイツに宣戦布告。12月、徳島市内に徳島収容所開設

大正6(1917)年4月
松山、丸亀、徳島の三つの収容所を板東に統合。大正9(1920)年1月までの約2年10カ月間にわたり、1000人前後のドイツ兵捕虜が過す

大正7(1918)年6月
捕虜でつくる「徳島オーケストラ」が収容所内でベートー

ベンの交響曲第九番を全曲演奏する。アジアでの初演。11月にドイツ軍が連合国軍に降伏し、終戦

大正9(1920)年4月
板東俘虜収容所を閉鎖

昭和47(1972)年5月
鳴門市ドイツ館完成

昭和49(1974)年4月
鳴門市と独リューネブルク市が姉妹都市提携を結ぶ

昭和57(1982)年5月
鳴門市文化会館落成記念で第1回のベートーベン「第九」交響曲演奏会

平成元(1989)年6月
全日本「第九を歌う会」連合会設立

平成5(1993)年10月
新ドイツ館が完成

平成10(1998)年1月
神戸—鳴門ルート全通記念事業で小澤征爾氏を指揮者に迎え、第九演奏会

平成11(1999)年10月
板東俘虜収容所・松江豊寿所長の出身地・会津若松市と鳴門市が親善交流書に調印

平成13(2001)年2月
独リューネブルク市で初の里

帰り公演

平成15(2003)年2月
NPO法人鳴門「第九」を歌う会結成。6月、独ブラウンシュバイク市で第2回里帰り公演

平成18(2006)年6月
板東俘虜収容所を舞台にした映画「バルトの楽園」公開

平成20(2008)年3月
中国・青島で第3回里帰り公演

平成28(2016)年6月
第35回ベートーベン「第九」交響曲演奏会